

日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部 活動報告

発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 総合診療専門研修医と医学生による診療船 済生丸実習 (2018年5月14～17日、宇和海)

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

研修医と学生の離島実習を兼ねて診療船：済生丸に乗船し、宇和海に浮かぶ小島に向いました。乗船する船は、診療船というだけあって診察室、心電図、超音波、X線装置などあらゆる設備が整っていました。

朝5時に起床し、2時間かけて離島に向いました。午前7時に到着すると既に集会所にはたくさんの島民が集まっており、検診を待ちわびていました。

済生丸での実習では、大学の講義では味わう事

のできない離島ならではの医療の在り方について勉強させていただきました。



★2 第2回香川県地域包括ケアシステム学会学術集会 (予告)

四国ブロック支部事務局長・副支部長 大原 昌樹

香川県では、保健・医療・福祉の関係団体、香川大学、香川県立保健医療大学、産業界、住民組織、行政など地域包括ケアシステムに関わる団体・組織が中心となり、平成31年1月13日(日)、「香川県地域包括ケアシステム学会」設立記念大会を開催しましたが、その第2回学術集会が、令和元年11月3日(日)、サンポート高松国際会議場を中心に行われます。テーマは、「新時代の地域包括ケアシステムを考える～私たちみんなが元気で活躍できる社会の実現に向けて～」です。

簡単にプログラムを紹介いたします。まず、特別講演は、話題となっているACP(Advanced Care Planning、人生会議)を取り上げ、国立長寿医療研究センター在宅連携医療部、三浦久幸部長にご講演いただきます。また、香川県内の状況についての報告も予定しています。その後、生涯現役社会について、経済産業省からの講演もあります。

午後は、今回から一般演題を2会場で行います。多くの職能団体が発表予定で、多職種のさまざまな活動報告を聞くことができると思います。その後、「香川県における地域包括ケアシステムと学会活動について」というテーマでシンポジウムを行います。福祉分野で非常に著名な公益社団法人テクノエイド協会理事長、日本社会事業大学名誉教授、大橋謙策先生に基調講演をいただき、その後、2つの郡市地区医師会の活動報告、最後に総合討論として、香川大学長、香川県医師会長、香川県健康福祉部長などを交えて、今後の地域包括ケアシステムについて議論することとしています。

日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会2日目に同じ建物内で行いますので、こちらの学術集会にも参加可能です。案内状、申込用紙を四国地方会のものと合わせて7月頃発送予定です。県外の方も参加可能ですので、よろしくお願いいたします。

★3 第19回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会／香川プライマリ・ケア研究会／
第26回四国地域医学研究会 合同学術集会 開催のご案内

大会長 小豆島中央病院 佐藤 清人

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成から令和へと新たな時代が幕を開け、毎年、四国4県が持ち回りで開催しております四国地方会を、令和初年度は香川県のサンポートホール高松で開催させていただくこととなりました。

近年は全国的に少子高齢化・人口減少が進み、地域においては医療資源の不足や偏在のほか、働き方改革など医療を取り巻く環境が厳しさを増しており、このような中、地域包括ケアシステムを構築していくためには、それぞれの地域の状況に応じた創意工夫が必要となっております。

そこで、今回は「新時代に向けての総合診療」をメインテーマとし、1日目は一般演題に加え、特別講演として香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学教授 南野哲男先生をお招きし、新時代を担う子供たちの生活習慣病についてご講演いただきます。また、綾川町国民健康保険陶病院内科 コルビン真梨子先生には、実体験に基づき、英国の医学教育・臨床研修と医療制度についてご講演いただくこととしております。2日目はポートフォリオ発表会と四国プライマリ・ケア交流会を企画しておりますので、専攻医・研修医・学生の皆さんは是非ご参加ください。

一人でも多くの方々にご満足いただけるよう準備を進めてまいりますので、多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

なお、2日目午後から日本プライマリ・ケア連合学会主催指導医講習会が同会場にて開かれます。こちらは、日本プライマリ・ケア連合学会ホームページからお申込み下さい（8月26日受付開始予定）。



【開催日程】 令和元年11月2日(土) 14時～18時20分
令和元年11月3日(日) 8時30分～12時30分

【会場】 サンポートホール高松 5階 54会議室

【プログラム】

【第1日目】 11月2日(土)

- 13:00～13:30 四国地域医学研究会総会
- 14:00～14:10 開会
- 14:10～16:30 一般演題
- 16:40～17:10 特別講演1

綾川町国民健康保険陶病院内科 コルビン 真梨子 先生

17:20～18:20 特別講演2

香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学教授 南野 哲男 先生

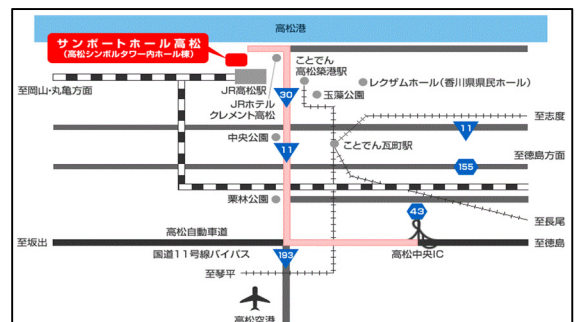
18:25～18:45 日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部総会

19:15～ 懇親会 [海鮮居酒屋 神童ろ [わらじろ]]

【第2日目】 11月3日(日)

8:30～10:30 ポートフォリオ発表会

10:30～12:30 四国プライマリ・ケア交流会



★4 2019年度 四国ブロック支部役員会

四国ブロック支部 支部長 阿波谷敏英

平成31年4月20日(土)高知医療センターにて四国ブロック支部役員会を開催しました。これまで支部役員会は4月頃の平日の夜に四国中央市で開催するのが通例となっていました。しかし、今回からポートフォリオ発表会&専攻医交流会との同日開催としました。これにより、ポートフォリオ発表会も盛会となりました。



支部役員会は26名の出席がありました。会では2018年度の事業報告および決算、2019年度の事業計画及び予算、今後の四国ブロックのイベントについて、ブロック支部長選出方法などについて、協議されました。今後の四国ブロック支部のイベントは年2回(A:役員会+ポートフォリオ発表会+専攻医オリエンテーション、B:地方会+ポートフォリオ発表会+指導医講習会)に集約することとなりました。2019年度はAを高知、Bを香川で開催する。2020年度以降は、香川→愛媛→高知→徳島→香川の順に回していくことに決定しました。



今後も、支部役員会は春のポートフォリオ発表会にあわせて、四国四県持ち回りでの開催といたします。

★5 2019年度 春のポートフォリオ発表会

愛媛生協病院 原 穂高

平成31年4月20日(土)高知医療センターにて四国ブロック支部ポートフォリオ発表会&専攻医交流会が開催されました。専攻医13名、指導医24名、計37名の参加がみられ、盛会となりました。



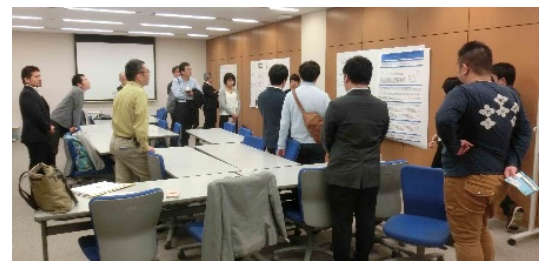
その企画について、概要を下記に示します。

1) 全体オリエンテーション:

この中では、「研修手帳」、「ポートフォリオのテーマ」についての説明を行いました。また、プログラムの紹介や、専攻医部会の紹介などもあわせて行いました。

2) ポートフォリオ発表会:

これについては11名が担当しました。2グループに分かれて、ポスター形式によって、ポートフォリオに関して発表しまし



た。予想以上に多くの参加がみられ、その中で活発な討議が交わされました。



大倉佳宏先生(徳島大学)に総合司会を、福留恵子先生(高知大学)と河南真吾先生(徳島県立海部病院)にポートフォリオ発表の座長を、江田雅志先生(高知県立あき総合病院)に受付を務めていただきました。関わって頂いたみなさまありがとうございました。これからも年2回のポートフォリオ発表会を行いますので、楽しみにしてください。



★6 医学生サークル「T-CoM 地域医療研究会」による稲次病院視察

徳島大学病院総合診療部 谷憲治

2019年4月20日、医学生サークル「T-CoM 地域医療研究会」のメンバー25名が徳島県板野郡藍住町にある社会医療法人凌雲会 稲次病院を視察しました。



谷教授も同行し、稲次美樹子先生を中心に稲次病院のスタッフの皆さんに、病院、老健、特養、グループホーム、デイなどの様々な施設を視察させていただきました。

同じグループとしての各部署間の連携等、地域医療機関だからこそできるチーム医療の姿も見せていただ

きました。今回は大半(22名)が3年生以下の低学年でしたが、すべての学年にとって分かりやすく、有意義な実習を組んでいただき本当にありがとうございました。

特に参加した1年生8名にとっては初めて目にするものばかりでしたが、他の同級生より一歩医師に近づいた気持ちにさせていただきました。

また経営するチョコレートショップ「QUON」での試飲や稲次美樹子先生とのキャリアに関する意見交換会も女子学生にとって大変参考になりました。視察の後は蔵本に戻り、新歓を兼ねた親睦会を行いました。



★7 健康講座の開催 2019年6月9日(日曜日)

徳島県プライマリ・ケア研究会 板東 浩

私どもの活動の一つとして、かつてプライマリ・ケア医学を本邦に導入された聖路加国際病院の日野原重明先生が広く啓発してこられた日野原イズム(Hinohara-ism)に関わるプロジェクトがあります。従来、協調して行ってきました。以前から糖質制限(Low Carbohydrate Diet, LCD)について啓発していましたが、日野原先生も自身も実践され、サポートくださっていました。

過日、本邦におけるLCDの権威である江部健康二先生が来徳され、プライマリ・ケア医学や内科学、糖尿病学、「新老人の会」関連の方々とともに、交流会および講演会が行われましたのでご報告します。江部先生は、本邦で最初にLCDをスタートし、その後多くの著者やセミナーなどにより、LCDの臨床および研究が発展してきました。



近年では、日本糖質制限推進協会(Japan Low Carbohydrate Diet Promotion Association, JLCDPA)の活動が展開してきています。筆者の板東も、本活動と一緒に参加してきており、このたびのLCDの研修会へと発展しました。

今回は、6月8日(土)夜に、交流会を、JR徳島駅前にある様々な企画を行っている「コティ」で開催しました。そして、翌日9日(日)13時から、国際会議場であるアスティ徳島において、LCDの研修会が開催されました。出席者は110名でした。

最初に、板東が、LCDを実際に行うコツやヒントについて実践例を交えて40分解説し、その後、江部先生が歴史や経緯、学術的な側面から80分解説を続けました。引き続いて、質疑応答の時間を十分にとることができました。

徳島県は今まで、糖尿病による死亡率が長年ワースト1位あるいは非常に悪いランキングである状況が続い

てきています。すでに、徳島県庁、徳島大学、徳島県医師会が協調した活動が行われてきていますが、まだ効果はみられているとの報告はまだみられません。

さらに、関連事項として、徳島と香川の両県で類似したデータがみられます。徳島ではラーメン+ごはん、香川県ではうどん+ごはんなどの食生活が知られてきました。さらに、両県ともに野菜摂取が少なく、公共交通機関が整備されておらず、各自が自家用車で door to door という運動習慣も共通しています。今後、肥満や糖尿病に対する対応が重要であり、LCD の効果が期待されていると思われます。

2013年10月に米国糖尿病学会が5年ぶりに改訂した「栄養療法に関する声明」のなかで、地中海食やベジタリアン食などとともに「糖質制限食」を正式に容認したことが大きな追い風となりました。

さらに、2019年4月、米国糖尿病学会は、「成人糖尿病患者または予備軍患者への栄養療法」コンセンサス・レポートを発表しました。その中で『糖質制限食』におけるエビデンスが最も豊富であるとして一番積極的に推奨されています。

このように、この1~3年、糖質制限食の展開において大きな発展がみられており、いい意味のサプライズもありました。2016年7月のNHK クローズアップ現代の試算によれば、糖質制限市場は拡大しており、3184億円と報告されています。



★8 第19回愛媛プライマリ・ケア研究会開催 (2019年6月29日)

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

第19回愛媛プライマリ・ケア研究会について、このたびは愛媛大学大学院社会医学コースフォーラムをかねて開催する予定です。学生や研修医、一般臨床による一般演題6題(16:00-17:30)ぐらいの後、特別講演1(17:30-18:00)として、生活習慣病の話題、特別講演2(18:00-19:00)として、プライマリ・ケア関係の話題を企画しており、現在調整を行っているところです。

つきましては、プライマリ・ケアに関する、ご経験にもとづいたご演題等を募集いたします。

下記の要領にて、ふるってご出題頂きますようお願い申し上げます。

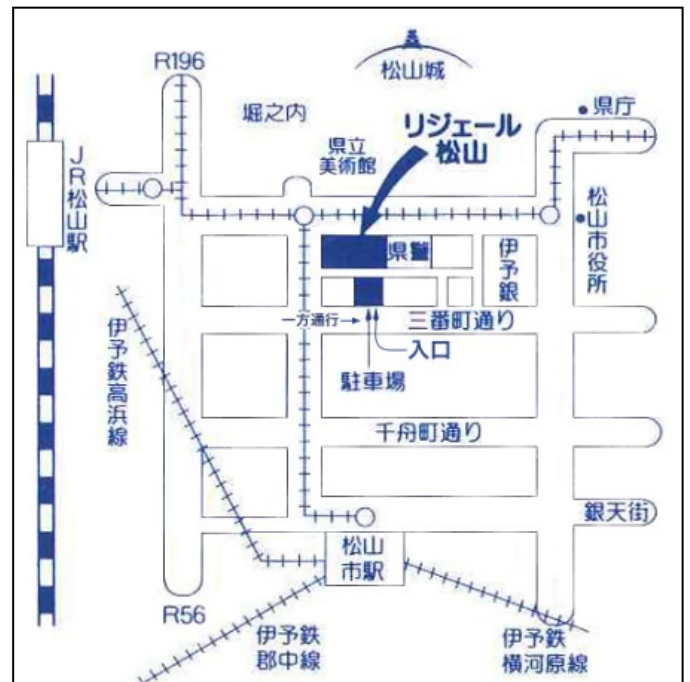
なお、発表を希望される方は「演題名」、「所属」、「出題者名」、「内容(400字以内)」を、下記の宛先までお送り下さい。

【日時】2019年6月29日(土)
午後4時00分～

【場所】JA愛媛8F リジェール松山

【特別講演】自治医科大学地域医療センター
地域医療学部門
小谷和彦 先生

「地域における疫学研究の実際(仮称)」



★9 南阿波で地医輝体験！ SAKURA-GM 合宿@徳島県立海部病院

徳島大学大学院総合診療医学分野/徳島県立海部病院 河南 真吾

「輝く医学生たちが、地域の魅力を満喫しながら、総合診療や地域医療を学べる素敵な交流活動」をコンセプトとして、徳島大学の総合診療スタッフで年3回シリーズの合宿を企画しました。

第一弾は「高齢者とリハビリ」をテーマとして、徳島県南の海部病院にて2019年6月1～2日(土日)に開催。企画のキャパシティの都合上少数精鋭で募集した合宿に、医学生4人と初期研修医2人が参加してくれました。

オリエンテーションとして「総合診療・家庭医療とは」のミニレクチャーをした後、お腹を空かせた若人の目の前に出てきたのは嚥下食。3段階の嚥下食の味や食感を体験してもらいました。そして認知・嚥下機能の低下した家族に食事を安全に楽しんでもらうための介助法を修得しました。

昼食後は海部病院から車に乗りこみ、清流沿いの道路を上っていくこと15分。待っていたのは炭焼き小屋。地元の楽しい炭焼き職人たちに手ほどきを受けながら、炭作りや薪割りを教わったほか、つくたての餅や大きな伊勢海老が振る舞われ、参加者から驚きの声は何度もこぼれました。

夕暮れが過ぎると海部川のほたる祭りに参加。ほたるのやわらかい光が飛び交う中を小舟ののって進む幻想的な体験をしました。

翌朝、海部病院内のリハビリ室に集まり、移乗等の介助実習を行いました。嚥下食実習もそうですが、医学生自らが低ADL患者になりきり、自分で食べたり動いたりすることの大変さを経験します。その上で介助役になり、足腰を痛めないようどう効率的に患者を介助するか、試行錯誤しながらコツを修得していただきました。



最後にみなで振り返り。参加者たちの感想を紹介します。

☆嚥下食や介助について学ぶのは初めてだったが、実際に介助してもらうことで患者さんに近い立場で考える事ができた。

☆普段私達が何気なく行なっている動作が、高齢者や身体の不自由な方々にとってどれほど難しいか、介助の仕方できやすさが大きく左右されること等がわかりました。

☆介助は実際に祖父母にも実践できそうだし、医者になってからも詳しく学ぶ機会はないそうなので、大変勉強になりました。

☆他職種の仕事を知るきっかけになった。知識を持つことで互いに安心できる部分が増えていくと思うので、今回学んだことを忘れずもっと勉強したいと感じた。

☆地域の方々のさまざまな価値観に触れ合う事ができ、より地域で働きたい気持ちが強くなった。

☆次回もぜひ参加したいです、また誘っていただきたいです！

コンセプトの狙い通り、みなが素敵な学びと感動を得て車で帰っていきました。この企画がプライマリ・ケア領域に進む医師を増やす一助になればと願っています。

